

定住自立圏構想

中心市宣言書

平成22年3月23日

出雲市

出雲市定住自立圏中心市宣言

～ 子供たちや若者が夢と希望を持てる「5つ星の出雲市」をめざして ～

わが国は、平均寿命の伸びや出生率の低下により、急速に少子高齢化が進んでいる。出雲市も例外ではなく、既に4人に1人が65歳以上という状況になっており、今後の少子高齢化に向けた対応は、喫緊の課題となっている。

このようななか、定住化の推進と交流人口の拡大により大都市圏から出雲市への人の流れを創出し、人口流出を食い止め、地域経済の活性化を図るとともに、市民が安全安心に暮らせる持続可能な地域社会を創っていくことが必要である。

平成17年3月22日に2市4町で合併した出雲市は、旧出雲市において島根県立中央病院や島根大学医学部附属病院などの県内有数の医療機関があるとともに、出雲ドーム、出雲弥生の森博物館といったスポーツ、文化施設や民間の商業施設も集積しており、この地域の中心として、市民の暮らしを支え、交流人口の拡大に向けての都市機能の充実に取り組んでいる。

また、合併以前から旧平田市、旧佐田町、旧多伎町、旧湖陵町、旧大社町（「旧1市4町」という。）と旧出雲市は様々な形で広域行政に取り組んできたところであるが、通勤通学といった人の移動はもとより、経済活動をはじめ、歴史的にも文化的にも共通の土壌にある地域であり、旧出雲市がこの地域において、経済、文化、教育など住民生活等において中心的役割を担うなど、その関係はより一層強固なものになっている。

このような強い結びつきをもって合併した本市は、合併によって集積した豊かな資源と地域特性を十分に生かし、また地域間が連携・協働し、21世紀に自立、発展するまちづくりを進めているところである。平成17年に策定した「21世紀 出雲のグランドデザイン」では、旧出雲市地域を中核都市拠点と位置付け、出雲市の顔として、人が集い賑わう都市空間の形成に努めるとともに、旧平田市については、東部都市拠点とし、この地域の海岸部から旧大社町、旧湖陵町、旧多伎町に続く海岸部を海洋・観光資源エリアとしている。また、旧佐田町を中心とする地域を森林・環境資源活用エリアとし、それぞれの特性を生かしながら、地域住民の生活に必要な機能の充実に取り組んでいるところであるが、「定住」のための暮らしに必要な諸機能を確保すると同時に、「自立」のための経済基盤や地域の誇りを培い、豊かさを実感できる出雲市を創りあげていくためには、「集積とネットワーク」による施策の展開が必要である。

このため、ここに、合併前の旧出雲市を中心地域とし、旧1市4町を周辺地域とした「出雲市定住自立圏」の構築を掲げ、圏域全体の生活機能の集約化・ネットワーク化を促進し、自己責任において自立した地域経営を行い、圏域の豊かな地域資源を生かして、市民が郷土に誇りと自信を持てる真の意味でのブランド化を推進し、もって新市の均衡ある発展を目指すことを内外に向けて宣言するものである。

平成22年3月23日

出雲市長 長岡 秀人

定住自立圏形成の背景と取組み

中心地域となる旧出雲市が、周辺地域である旧1市4町を含めた合併後の出雲市に居住する住民の生活機能を確保し、地域の魅力を向上させていくための基盤となる都市機能の集積状況及び旧1市4町との連携・交流の状況、また、「集約とネットワーク」の考え方により展開しようとする取組みは以下のとおりである。

1. 旧出雲市における都市機能の集積状況

公共施設等による各種サービス機能、中核的な医療機能、大規模商業・娯楽機能その他行政及び民間分野における都市機能の集積状況は概ね以下のとおりであり、より高次の定住自立圏を形成する中心地域としての機能が確保されている。

	都市機能	施設名
交通	高速道路	山陰自動車道
	幹線道路	国道9号、国道431号線
	ターミナル駅	JR出雲市駅
	長距離バス	出雲⇄大阪、出雲⇄東京、出雲⇄福岡
	空港アクセスバス	出雲⇄出雲空港
医療 福祉	地域がん診療連携拠点病院	島根大学医学部附属病院、県立中央病院
	救急指定病院	島根大学医学部附属病院、県立中央病院、出雲市民病院
	地域周産期母子医療センター	県立中央病院
	災害拠点病院	県立中央病院
	医療研究施設	島根難病研究所
	福祉相談機関	出雲児童相談所、高齢者あんしん支援センター、障がい相談支援事業所
教育	大学・大学校	島根大学医学部、県立大学短期大学部出雲キャンパス
	各種専門学校	トリニティカレッジ出雲医療福祉専門学校、県立出雲高等技術校、出雲自動車学校、出雲高等自動車教習所
	高等学校等	県立出雲高等学校、県立出雲工業高等学校、県立出雲商業高等学校、県立出雲農林高等学校、私立出雲西高等学校、私立北陵高等学校、県立出雲養護学校、県立出雲高等学校併設定時制
文化 スポーツ	文化ホール	ビッグハート出雲、出雲市民会館
	図書館	出雲中央図書館
	スポーツ施設	県立浜山公園、出雲健康公園（出雲ドーム）、出雲ゆうプラザ、出雲体育館
	博物館、科学館	出雲弥生の森博物館、出雲文化伝承館、出雲科学館
	CATV	出雲ケーブルビジョン
行政	国	松江地方法務局出雲支局、出雲税務署、出雲労働基準監督署、国土交通省出雲河川事務所、自衛隊出雲駐屯地
	裁判所	松江地方裁判所出雲支部、出雲家庭裁判所出雲支部、出雲簡易裁判所
	県	出雲保健所、出雲県土整備事務所、東部農林振興センター出雲事務所、出雲教育事務所、東部県民センター出雲事務所、島根県住宅供給公社出雲住宅管理事務所、島根県農業技術センター、島根県畜産技術センター 等
	市	出雲市役所本庁舎、出雲市消防本部、出雲市水道局
商業	大規模商業施設	デパートパラオ、ゆめタウン出雲、ジャスコ出雲ショッピングシティ、ラピタ本店、メガセンタートライアル出雲店、いない出雲ドーム東店、ナフコ北出雲店

2. 旧1市4町住民の都市機能利用状況

次表のとおり、旧1市4町の住民も旧出雲市に集積された都市機能を活用しているなど、旧出雲市の都市機能は周辺地域にも及んでおり、旧出雲市がこの地域で、経済、社会、文化など住民生活等において中心的な役割を担うなど旧1市4町とは密接な関係を継続している。

① 市内主要病院の居住地別患者数

島根県立中央病院（平成20年度島根県立中央病院調べ 単位：人）

自治体名	入院患者数	割合	外来患者数	割合
出雲市	8,156	61.2%	166,802	64.9%
松江市	314	2.3%	5,043	2.0%
雲南市	986	7.4%	19,329	7.5%
大田市	1,116	8.4%	19,090	7.4%
斐川町	1,401	10.5%	29,582	11.5%
その他県内	1,010	7.6%	13,968	5.5%
県外	346	2.6%	3,059	1.2%
合計	13,329	100%	256,873	100%

自治体名	救急外来患者数	割合
出雲市	18,674	69.7%
松江市	524	2.0%
雲南市	1,756	6.6%
大田市	881	3.3%
斐川町	3,286	12.3%
その他県内	834	3.1%
県外	816	3.0%
合計	26,771	100.0%

② 島根大学医学部附属病院（平成20年度島根大学医学部附属病院調べ 単位：人）

自治体名	入院患者数	割合	外来患者数	割合
出雲市	3,328	48.3%	18,609	57.5%
松江市	347	5.0%	1,331	4.1%
雲南市	276	4.0%	2,668	8.2%
大田市	613	8.9%	2,237	6.9%
斐川町	445	6.5%	2,577	8.0%
その他県内	1,692	24.5%	4,200	13.0%
県外	196	2.8%	735	2.3%
合計	6,897	100.0%	32,357	100.0%

③ 旧1市4町（旧平田市・旧佐田町・旧多伎町・旧湖陵町・旧大社町）から旧出雲市への買い物等の動向割合

	食料品	衣料品・ 身回品	日用雑貨	文化品	外食	娯楽・ レジャー
旧平田市	9.2%	26.9%	10.1%	51.3%	50.0%	55.3%
旧佐田町	31.6%	66.2%	65.3%	81.3%	85.3%	77.1%
旧多伎町	33.4%	72.8%	61.5%	73.2%	81.1%	69.0%
旧湖陵町	62.1%	83.6%	78.6%	85.0%	95.0%	78.6%
旧大社町	28.5%	59.4%	37.0%	73.6%	91.2%	66.2%

※平成19年商勢圏実態調査

3. 出雲市に対する通勤通学割合

① 周辺市町からの通勤・通学者数の状況

	常住就業者・通学者数（単位：人）		割合
		うち出雲市での 従業・通学者数	
松江市	107,885	2,059	1.9%
斐川町	15,678	4,900	31.3%
雲南市	25,273	1,548	6.1%
大田市	21,293	1,047	4.9%
合計	170,129	9,554	5.6%

※平成17年度国勢調査

② 周辺地域(旧1市4町)から中心地域(旧出雲市)への通勤・通学者数の状況

旧1市4町からの旧出雲市に対する通勤通学状況は、次表のとおり一定割合以上の住民の移動があり、旧出雲市はこの地域における住民生活等において中心的な役割を担っている。

	常住就業者・通学者数（単位：人）		割合
		うち旧出雲市での 従業・通学者数	
旧平田市	13,453	2,799	20.8%
旧佐田町	1,951	655	33.6%
旧多伎町	1,899	755	39.8%
旧湖陵町	2,497	1,353	54.2%
旧大社町	7,174	3,007	41.9%
合計	26,974	8,569	31.8%

※平成12年度国勢調査

4. 展開しようとする取組み

古くから出雲地域2市4町は強い結び付きを持ち、通勤、通学、買い物など住民の日常的な生活圏は、行政区域を越えて一体化していた。この地域が合併により、それぞれの地域特性や地域課題を踏まえ、総合的なまちづくりを推進することが必要である。

定住自立圏の形成に向けて「集約とネットワーク」の考え方を基本とし、圏域全体の活性化を通じて人口の定住を図るため、下記の取組みを展開していく。

① 生活機能の強化に係る取組み

- a 医療（医師・医療従事者の確保、地域医療ネットワーク整備、救急医療体制の充実、総合医療センターの機能強化、へき地医療確保体制の充実）
- b 福祉（子育て支援環境の整備、高齢者・障害者福祉サービスの充実、保健・医療・福祉のネットワーク化）
- c 教育（教育環境の整備、青少年の健全育成、高等教育機関との連携）
- d 産業振興（企業誘致、中心市街地活性化、観光振興、地域ブランド化）

② 結びつきやネットワークの強化に係る取組み

- a 地域公共交通（生活交通及び基幹交通の維持・確保）
- b デジタルデバイドの解消へ向けたICTインフラ整備（携帯電話不感地域の解消、防災ネットワークの構築、ケーブルテレビ網の整備促進）
- c 道路等の交通インフラの整備（山陰自動車道の整備促進、基幹道路のネットワーク整備、生活幹線道路の整備）
- d 地域の生産者や消費者等の連携による地産地消（農水商工連携による地産地消の推進）
- e 地域内外の住民との交流・移住促進（定住施策の充実、空き家の利活用、交流人口の増加策、安全安心なまちづくり）

③ 圏域マネジメント能力の強化に係る取組み

- a 宣言中心市等における人材の育成（講座・研修等による人材育成、地域に密着した農商工各分野における人材育成・後継者育成）
- b 宣言中心市等における外部からの行政及び民間人材の確保（民間企業等経験者の積極的な採用や外部の専門的な人材の活用）
- c その他（上記のほか、圏域マネジメント能力強化のための取組み）

※用語説明

- ・ICTとは、情報通信技術
- ・デジタルデバイドとは、昨今急激に進む情報化の中で生じつつある情報収集機会や情報収集力の格差を指しており、情報技術が社会的な格差を拡大、固定化する現象。